

あなたの声を“かたち”に！

若い力で全力投球！！

# 勝山ひでお通信

Vol. **13**

## ごあいさつ



今年3月、長野市は人口減少問題、少子高齢化を克服し、活力ある地域社会を引き継いでいくため、「長野市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を策定しました。今年度は、その総合戦略の実行を開始する長野市創生をスタートする大変重要な年度になります。

私も今まで以上に市民の皆様のご意見・ご要望をお聞きし、その声を市政に届け、人が輝く長野市、女性や若者がもっと活躍できる長野市を目指し、全力で働いてまいります。

今後とも暖かいご支援を賜りますよう宜しくお願い申し上げます。

発行 勝山ひでお 長野市下駒沢2253-1

TEL/FAX 026-219-2016 E-mail: katsuyama@nkomei.com  
<http://www.komei.or.jp/km/nagano-katsuyama-hideo/>

## 実現しました！子育て支援を推進



### ながの版ネウボラ 妊娠・出産包括支援事業

昨年9月議会で提案させていただいた「ネウボラ」が、今春から長野県下初スタート！吉田・犀南保健センターに、母子コーディネーター（保健師）を配置し、妊娠期から子育て期に生じる出産・育児に関する不安や悩みに関する相談支援をワンストップで行います。「ながの版ネウボラ」は、保健センターを中心に相談支援体制を充実させ、すべての妊婦に保健師が関わり、医療と地域と有機的に連携しながら子育て家庭を就学前まで、切れ目のなく支えることが目的です。長野市の子育て支援が更に充実しました！



### 福祉医療費（通院）が中学校3年生まで拡大

今年3月まで小学6年生まで対象になっていた通院に関する福祉医療費の対象年齢を本年4月より、中学校3年生まで拡大しました。子育て世代の皆様の声聞き、議会で質問をし、実現を勝ち取りました！また、公明党の主張により、昨年からは厚労省で「子どもの医療制度の在り方等に関する検討会」が始まりました。窓口無料化も推進してまいります。



## 3月、6月議会の個人質問

本年3月議会より新・第一庁舎の新議場で本会議が行われています。右の写真は新議場です。3月、6月議会も個人質問に立たせていただき、皆様の声を市政に届けました。主な質問、答弁の趣旨は以下のとおりです。



### ながのわくわくメール子育てについて

**勝山** 以前、提案させていただいた、産前・産後の妊婦、お母さん、ご家族の方に無料で子育て情報を発信する「ながのわくわく子育てメール」が昨年7月より長野県下で初めて開始。メールサービスの登録件数の状況は？このメールサービスを充実させるため、アンケートを実施したがその内容は？

**こども未来部長** 平成27年度の登録目標は850人。平成28年2月末の時点で、産前メール149人、産後メール1061人、合わせて1,210人へ配信。登録数は倍増しています。アンケートの結果ですが、購読状況はメールが届いたら必ず読むが90%を超えており関心が高い事を表している。満足度は、良かった、とても良かったの合計が、産前で96%、産後89%と大変良い評価を頂いた。4月からは、全国初の試みとして、年長のお子さんを対象として教育委員会事務局と連携した、小学校入学に向けての応援情報のメール配信を予定しています。



### 教育現場における政治活動について

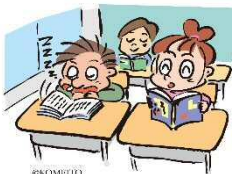


**勝山** 認定こども園の保護者より、新日本婦人の会が行っている戦争法廃止を求める統一署名簿が幼稚園からの連絡帳に挟まれていたと連絡があった。本当にこども園で署名用紙が配布されたのか？

**こども未来部長** 署名用紙を配布したとされるこども園に確認をしたところ、4月上旬に、地域の方から申し出のあった署名用紙を連絡帳に挟んで保護者に配布したとの事。

**勝山** 認定こども園において政治活動は認められているのか？

**こども未来部長** 教育基本法第十四条第二項には、「法律に定める学校は、特定の政党を支持し又はこれに反対するための政治教育その他政治活動をしてはならない」との規定がある。こども園はこの法律に定める学校に当たることからこの規定が適用される。



### 人工内耳装用者への支援について

**勝山** 人工内耳はとても優れた医療機器であるが、現状の制度ではスピーチプロセッサの交換費用と電池代の負担が重いという課題が残っている。その課題を解消するために、先進的に人工内耳の買い替え等に関して助成を行っている自治体がある。長野市もそのような助成をするべきでは？

**保健福祉部長** 国や他の自治体などの動向も注視しつつ、装用している方の実態やニーズを把握するとともに、医療保険や自立支援医療制度の適用範囲の詳細などについて調査、研究していく必要がある。



#### 「※人工内耳」とは

人工内耳とは、現在世界で最も普及している人工臓器の一つで、補聴器の装用効果が得られない90デシベル以上の重度難聴の方が、聴覚でのコミュニケーションが可能となる唯一の治療法。手術で内耳の蝸牛という部分に電極を埋め込み、神経を電氣的に刺激して聴覚を取り戻す仕組み。